

令和5年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（新規導入市町等対象） 開催報告

- 趣旨** コミュニティ・スクールおよび地域学校協働活動を導入する（予定も含む）市町・学校の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明するとともに、具体的な体制整備に向けた手立てを学ぶ機会とする。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。
- 主催** 滋賀県教育委員会
- 対象**
 - ・各市町「学校を核とした地域力強化プラン」担当者
 - ・各校園の地域連携担当教職員
 - ・各校園の学校運営協議会委員
 - ・地域学校協働活動の関係者（推進員、協働活動支援員、学習支援員等）
 - ・各市町社会教育委員
- 日時** 令和5年6月6日（火）13:30 ～ 16:30
- 会場** 滋賀県庁 東館7階 大会議室（大津市京町四丁目1番1号）オンライン参加も可
- 内容**
 - ・講演：「これで安心！コミュニティ・スクールと地域学校協働活動
～ちがいを知れば一体的に進められる～」
講師：国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官 志々田 まなみ 氏
 - ・ミニトーク：「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の不安の解消に向けて」

7 参加者数 110名（来場47名、オンライン63名）

8 研修会の概要

（講演）

志々田氏より、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の違いや、その一体的推進について御教示いただいた。

コミュニティ・スクールとは、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させる仕組みである「学校運営協議会」が、教育委員会によって設置された学校のことである。

地域学校協働活動とは、教職員と地域住民とが、課題や教育目標を共有し、教育的な役割を自覚し、分担しあったり、協力しあったりしながら子育てを進めようとする地域づくりの取組である。

両者の一体的推進のカギとなるのは、当事者意識を持って、多様な他者と関わりながら、学校・子どもをめぐる教育課題に取り組む大人の存在である。



(ミニトーク)

参加者から出た質問や、市町から募った不安な点や疑問点について、志々田氏から丁寧に回答していただき、自身の役割について具体的にイメージをすることができた方が多かった。

9 参加者のアンケートより

- ・今、自校のコミュニティ・スクールはどうかを考えることができた。自校では今年度から全職員が運営協議会に出席し、様々な立場の者同士で話をする機会を持つ。目標実現に向けて話し合える環境ができていることは良いこととわかり安心した。また、皆が当事者意識を持ち、子どものことをたくさん知ってもらえるように仕組んでいきたい。
- ・まずは子どもを見てもらう、ということがベースになるのはその通りだと思う。地域と同じ方向を向いて活動をしていくときに、学校のグランドデザインを共有し、学校の考えていることを示しながら、地域はどんな子育てや地域づくりを目指しておられるのかをこれからも発信・受信していきたい。
- ・目標を共有し、子ども、地域、学校のことを知り、「当事者意識」を持って取り組むことが大切だと思った。ただ交流・行事を増やすだけではみんながパンクするので、大切にすることを共有すべきだと感じた。
- ・地域連携担当教職員の学校での役割はカリキュラムマネジメントであるということだった。学校運営協議会での熟議と学校のカリキュラムをつないでいくには、やはり学校内でビジョンをある程度持つておく必要があると思った。
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進のために学校運営協議会の在り方や、役割等がよく理解できた。当事者意識をもって参加することや、教育目標をお互いが出し合い共有することの大切さが分かった。現任校でもコミュニティ・スクールが始まったばかりなので、活動ありきの協議会ではなく、子どもたちに付けたい力を語り合える場にしていきたいと思った。

